



2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(非連結)

2024年11月8日

上場会社名 株式会社 アトム
コード番号 7412 URL <http://www.atom-corp.co.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 公博
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐藤 真一郎

TEL 045-224-7390

半期報告書提出予定日 2024年11月14日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	18,190	1.4	330		317		515	
2024年3月期中間期	18,449	8.8	172		112		580	

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	2.75	
2024年3月期中間期	3.09	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	20,158		6,247		31.0	
2024年3月期	20,318		6,763		33.3	

(参考)自己資本 2025年3月期中間期 6,247百万円 2024年3月期 6,763百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		0.00	0.00
2025年3月期		0.00			
2025年3月期(予想)					

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,957	5.4	1,183		1,168		31		0.01

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	193,559,297 株	2024年3月期	193,559,297 株
期末自己株式数	2025年3月期中間期	433,716 株	2024年3月期	444,666 株
期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	193,117,951 株	2024年3月期中間期	193,108,776 株

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P3「1. 当中間決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料・決算説明会内容の入手方法)

当社は、2024年11月14日(木)に機関投資家・アナリスト向け説明会をLIVE配信で開催する予定です。この説明会の資料については、後日当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境改善の期待から経済社会活動が活性化し、個人消費の回復やインバウンド需要の増加等を背景に、景気は緩やかな回復基調が続きました。一方、物価上昇の長期化による個人消費の伸び悩みや人手不足が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業については、人流、個人消費の回復やインバウンド需要の拡大もあり、緩やかに回復が続いております。しかしながら、原材料価格やエネルギーコストの高騰、継続的な採用難による人員不足やそれに起因する人件費の上昇を背景に、業界全体で価格改定の動きが継続しており、当社においても依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社では引き続き「すべてはお客様と従業員のために」という企業理念のもとに、ブランドコンセプト及びQSCAの再構築に合わせたオペレーションの見直し、店舗の衛生管理の徹底、採用強化による人員の充足を高め労働環境を安定させることで、お客様への提供価値を高め、家庭ではなかなか体験できない様々な料理や高いレベルのサービスを提供することによって、「楽しかった、おいしかった」とお客様に喜んでいただけるよう努めております。

お客様のご期待にお応えするために、ステーキ宮では、秋の味覚を存分にお楽しみいただける「大粒牡蠣フライ」を販売しております。2025年に迎える50周年に向けた未来プロジェクトとして、好評だった「超宮のたれ」「宮ランチ」に続き、かつて愛されたハンバーグメニューを再現した「思い出ハンバーグ」の第2弾、第3弾を販売するなど、続々とキャンペーンを実施しております。また、スーパーで提供する定番スープ「コーンポタージュスープ」が、一般社団法人フードアナリスト協会主催「ジャパン・フード・セレクション(スペシャリティ部門)」にて最高評価のグランプリを受賞、「宮のたれ」「宮ロース」も金賞を受賞致しました。

寿司業態では、「しまあじと夏の大漁祭り」「国産薫焼きかつおと秋の恵み祭り」など季節を感じるフェアを実施するとともに、無投薬で「安全安心」に育てられた陸上養殖のサーモンを期間限定で販売する等、サステナブルかつ付加価値の高い食材を活用したメニューを展開してまいりました。

焼肉業態では、既存の食べ放題コースをご注文で韓国旅行気分を味わえる「韓国フェア」を実施し、アプリ会員限定で小学生以下のお子様は食べ放題が無料になるなどお得なキャンペーンを実施してまいりました。

居酒屋業態では、豚肉の美味しさを十分に引き出した「氷温熟成豚」を使用したとんかつメニューをランチメニューに取り入れ、また、地元のお客様がご利用しやすい清潔感のある店舗造りを目的としたリモデルも積極的に実施してまいりました。

引き続き、当社でしか食べられない商品の開発・提案の強化に取り組んでまいります。

これらの結果、当中間会計期間における業績は、売上高が181億90百万円(前年同期比1.4%減)、営業損失が3億30百万円(前年同期1億72百万円)、経常損失が3億17百万円(前年同期1億12百万円)、中間純損失が5億15百万円(前年同期5億80百万円)となりました。

当中間会計期間において、不採算店6店舗の閉鎖により、当中間会計期間末の店舗数は328店舗(直営店318店舗、F C店10店舗)となりました。また、業態転換を2店舗、リモデルを19店舗行いました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

前中間会計期間において、「たれ事業」をコロナイドグループの株式会社コロナイドMDへ移管しており、当中間会計期間より報告セグメントの区分を変更致しました。詳細は、「2. 中間財務諸表及び主な注記(セグメント情報等の注記)」に記載のとおりであります。

<レストラン事業>

レストラン事業につきましては、業態転換を1店舗(「味のがんこ炎」から「カルビ大将」)、リモデル14店舗(「ステーキ宮」3店舗、「にぎりの徳兵衛」10店舗、「カルビ大将」1店舗)、不採算店4店舗(「ステーキ宮」2店舗、「にぎりの徳兵衛」1店舗、「味のがんこ炎」1店舗)の閉鎖を行い、当中間会計期間末の店舗数は240店舗となりました。

レストラン事業の当中間会計期間の売上高は、151億67百万円(前年同期比1.4%減)となりました。

<居酒屋事業>

居酒屋事業につきましては、業態転換を1店舗(「寧々家」から「いろはにほへと」)、リモデル5店舗(「いろはにほへと」)、不採算店1店舗(「寧々家」)の閉鎖を行い、当中間会計期間末の店舗数は54店舗となりました。

居酒屋事業の当中間会計期間の売上高は21億36百万円(前年同期比1.5%増)となりました。

<カラオケ事業>

カラオケ事業につきましては、不採算店1店舗(「時遊館」)の閉鎖を行い、当中間会計期間末の店舗数は24店舗であります。

カラオケ事業の当中間会計期間の売上高は、8億68百万円(前年同期比10.0%増)となりました。

<その他の事業>

その他の事業につきましては、当中間会計期間末の店舗数はF C店10店舗であります。

その他の事業の当中間会計期間の売上高は、17百万円(前年同期比15.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ1億60百万円減少し、201億58百万円となりました。その要因は現金及び預金を主とした流動資産の増加42百万円、減価償却による有形固定資産の減少42百万円、敷金及び保証金の回収を主とした投資その他の資産の減少1億55百万円によるものであります。

(負債)

当中間会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ3億55百万円増加し、139億10百万円となりました。その要因は短期借入金を主とした流動負債の増加12億88百万円、長期借入金を主とした固定負債の減少9億32百万円によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ、5億15百万円減少し、62億47百万円となりました。その要因は中間純損失の計上5億15百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は31.0%(前事業年度末は33.3%)となりました。

なお、利益剰余金の欠損金補填に伴い資本剰余金の減少14億70百万円と利益剰余金の増加14億70百万円の剰余金の処分を実施致しました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は48億89百万円となり、前事業年度末に比べ2億40百万円増加致しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1億5百万円となりました。

これは主に税引前中間純損失(3億48百万円)、減価償却費(4億69百万円)、未払消費税等の減少(3億66百万円)によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2億38百万円となりました。

これは主に有形固定資産の取得による支出(3億26百万円)によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は3億73百万円となりました。

これは主に短期借入金の借入による収入(15億円)、長期借入金の返済による支出(10億27百万円)、ファイナンス・リース債務の返済による支出(98百万円)によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月9日に公表致しました内容から変更はございません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,649	4,889
売掛金	1,261	1,017
有価証券	15	—
棚卸資産	264	289
その他	480	515
流動資産合計	6,670	6,712
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	5,054	5,037
その他(純額)	3,012	2,987
有形固定資産合計	8,067	8,024
無形固定資産	81	77
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,610	3,428
その他	1,922	1,949
貸倒引当金	△33	△33
投資その他の資産合計	5,499	5,344
固定資産合計	13,648	13,445
資産合計	20,318	20,158
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,404	2,749
短期借入金	100	1,600
1年内返済予定の長期借入金	2,055	1,909
未払法人税等	135	60
資産除去債務	90	—
賞与引当金	75	75
販売促進引当金	780	853
店舗閉鎖損失引当金	83	12
その他	2,698	2,449
流動負債合計	8,422	9,710
固定負債		
長期借入金	3,625	2,743
資産除去債務	1,243	1,221
その他	262	234
固定負債合計	5,132	4,199
負債合計	13,555	13,910
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	8,321	6,853
利益剰余金	△1,470	△515
自己株式	△179	△174
株主資本合計	6,770	6,263
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△7	△15
評価・換算差額等合計	△7	△15
純資産合計	6,763	6,247
負債純資産合計	20,318	20,158

(2) 中間損益計算書

(単位:百万円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	18,449	18,190
売上原価	6,385	6,437
売上総利益	12,064	11,753
販売費及び一般管理費	12,236	12,083
営業損失(△)	△172	△330
営業外収益		
不動産賃貸料	54	50
補助金収入	33	—
その他	57	49
営業外収益合計	145	99
営業外費用		
支払利息	27	33
不動産賃貸原価	46	44
その他	11	8
営業外費用合計	85	86
経常損失(△)	△112	△317
特別利益		
固定資産売却益	2	5
投資有価証券売却益	2	0
特別利益合計	5	5
特別損失		
固定資産売却損	—	2
固定資産除却損	106	13
減損損失	133	7
店舗閉鎖損失引当金繰入額	85	9
その他	2	2
特別損失合計	328	37
税引前中間純損失(△)	△435	△348
法人税、住民税及び事業税	48	60
法人税等調整額	95	105
法人税等合計	144	166
中間純損失(△)	△580	△515

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失(△)	△435	△348
減価償却費	549	469
販売促進引当金の増減額(△は減少)	35	72
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	40	△17
支払利息	27	33
固定資産売却損益(△は益)	△2	△2
固定資産除却損	106	13
減損損失	133	7
売上債権の増減額(△は増加)	235	243
棚卸資産の増減額(△は増加)	2	△25
未収入金の増減額(△は増加)	12	△2
仕入債務の増減額(△は減少)	21	345
未払消費税等の増減額(△は減少)	296	△366
その他	△141	△150
小計	883	273
利息及び配当金の受取額	2	1
利息の支払額	△30	△33
法人税等の支払額	△122	△136
法人税等の還付額	0	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	733	105
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,508	△326
有形固定資産の売却による収入	2	33
有価証券の償還による収入	—	15
投資有価証券の売却による収入	26	1
敷金及び保証金の差入による支出	△20	△25
敷金及び保証金の回収による収入	76	110
資産除去債務の履行による支出	△15	△41
その他	△19	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,456	△238
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△500	1,500
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△145	△98
長期借入れによる収入	2,500	—
長期借入金の返済による支出	△712	△1,027
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,141	373
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	417	240
現金及び現金同等物の期首残高	5,568	4,649
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,986	4,889

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	レストラン	居酒屋	カラオケ	たれ	その他 (注) 1	調整額 (注) 2	中間損益計算書 計上額(注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	15,377	2,104	790	162	15	—	18,449
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	15,377	2,104	790	162	15	—	18,449
セグメント利益又は損 失(△)	964	153	54	47	15	△1,407	△172

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、フランチャイズ事業を含んでおります。

(注) 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,407百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,407百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 3. セグメント利益又は損失(△)は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

レストラン事業及び居酒屋事業セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間会計期間においてはレストラン事業で130百万円、居酒屋事業で3百万円であります。

II 当中間会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	レストラン	居酒屋	カラオケ	その他 (注) 1	調整額 (注) 2	中間損益計算書 計上額(注) 3
売上高						
外部顧客への売上高	15,167	2,136	868	17	—	18,190
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	15,167	2,136	868	17	—	18,190
セグメント利益又は損 失(△)	734	145	77	17	△1,305	△330

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、フランチャイズ事業を含んでおります。

(注) 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,305百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,305百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 3. セグメント利益又は損失(△)は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間会計期間より、「たれ事業」のセグメント区分を廃止しております。これは、前中間会計期間において、「たれ事業」をコロワイドグループの株式会社コロワイドMDへ移管したことによるものであります。これにより、当中間会計期間より「レストラン事業」、「居酒屋事業」及び「カラオケ事業」の3つのセグメント区分となっております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

居酒屋事業及びカラオケ事業セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間会計期間においては居酒屋事業で6百万円、カラオケ事業で1百万円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2024年5月22日開催の取締役会において、欠損を填補し、早期の財務体質の強化を図るとともに今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、剰余金の処分が決議され、同日付で処分を実施致しました。この結果、当中間会計期間において、資本剰余金が14億70百万円減少し、利益剰余金が14億70百万円増加しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。